

あいら歴史物語

2007年6月14日(木)発行
始良歴史ボランティア協会ニュース

〒899-5421 第一号
始良町歴史民俗資料館気付
Tel 0995-65-1553 Fax66-5820
発行 始良歴史ボランティア協会
会長 橋木 雅晴

始良町歴史ボランティア協会の発足にあたって

始良歴史ボランティア協会会長 橋木 雅晴

このたび、始良町の史跡ガイドや歴史民俗資料館の展示案内を行う歴史ボランティア協会が発足いたしました。昨年の6月より文化財知識の習得とガイド技術の研修を積んでまいりました。特に研修後半には町内全域の史跡巡検を開始、コース設定や話し方を競い合いながらレベル向上を図りました。

さて、いよいよ5月より本番活動を開始いたします。何分とも初めての経験でありますし、お客様対応が不十分なことも予想されますが、失敗を教訓にレベルアップを図っていきたく思います。

始良町には歴史の道白銀坂をはじめ、島津義弘公関連史跡など誇るべき数多くの文化財が保存されています。これらの文化財からわが町の歴史・文化・風俗など、多くの皆様に正しく理解していただくためのガイドをめざしています。そして文化財を通して過去の人々の暮らしを想い、歴史の流れの中で現在の生活があることを、少しでも実感していただければありがたいと思っています。今後の活動へのご理解をいただきますようよろしくお願いします。

ガイドとしての初仕事

5月12日白銀坂ウォークでした。



上 御石山の説明をする西田ガイド



上 愛宕神社前で白銀坂のガイドをする濱口ガイド

左 国の指定登録文化財の白金酒造石蔵を説明する松元ガイド



編集者は同じガイド仲間として、大変良くできたと思うのですが、身最真でしょうか。

しかし、まだ駆け出し。ガイドの話で郷土史や民話・民芸に関心を持つ人が一人でも多くなって欲しいと思っています。

重富地区の史跡紹介

私たちは、ボランティアとしての知識やマナー等を身に付けてきました。いよいよ社会へ出て、その成果を発表することになりました。ボランティア活動の処女航海です。では出発。皆さんのご支援ご協力をよろしくお願いいたします。(旅の途中にクイズを用意しています。お答えくださると私たちガイドは元気が湧きます。)

「胸がドキドキ、うまく説明できるかな。」
「ここがお石様だね。お花が手向けてあるよ。」

(1) お石山

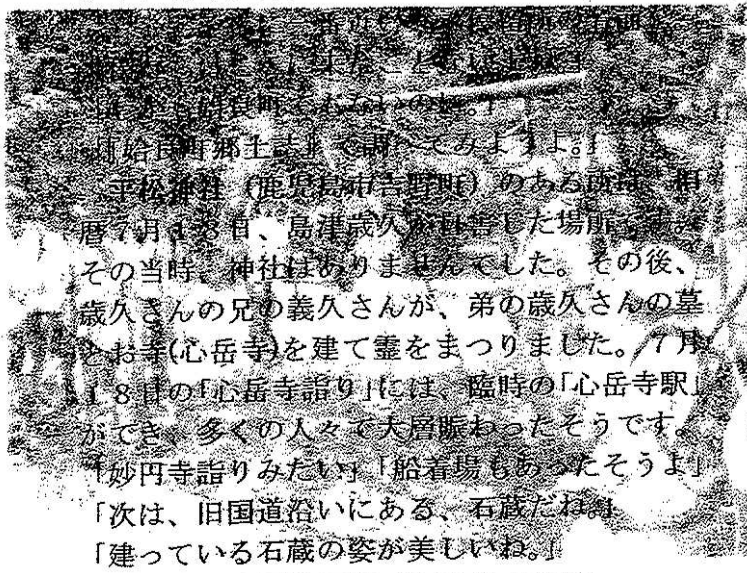
この場所は、今から400年ほど昔、島津のお侍さんたちが、島津歳久さんというお侍さんが自害した身体を井戸水で洗ったところです。脇元の人々が石を山のように積んで、歳久さんたちの霊を葬ったといわれています。だから、お石山といわれるのです。

「ねえ、どうだった。」「初めはドキドキだったが、話し始めたら夢中になって忘れた。」

「歳久というお侍さん、どこで自害されたの。」

「ほら、あそこ。」

クイズ①平松神社です。どこにありますか。

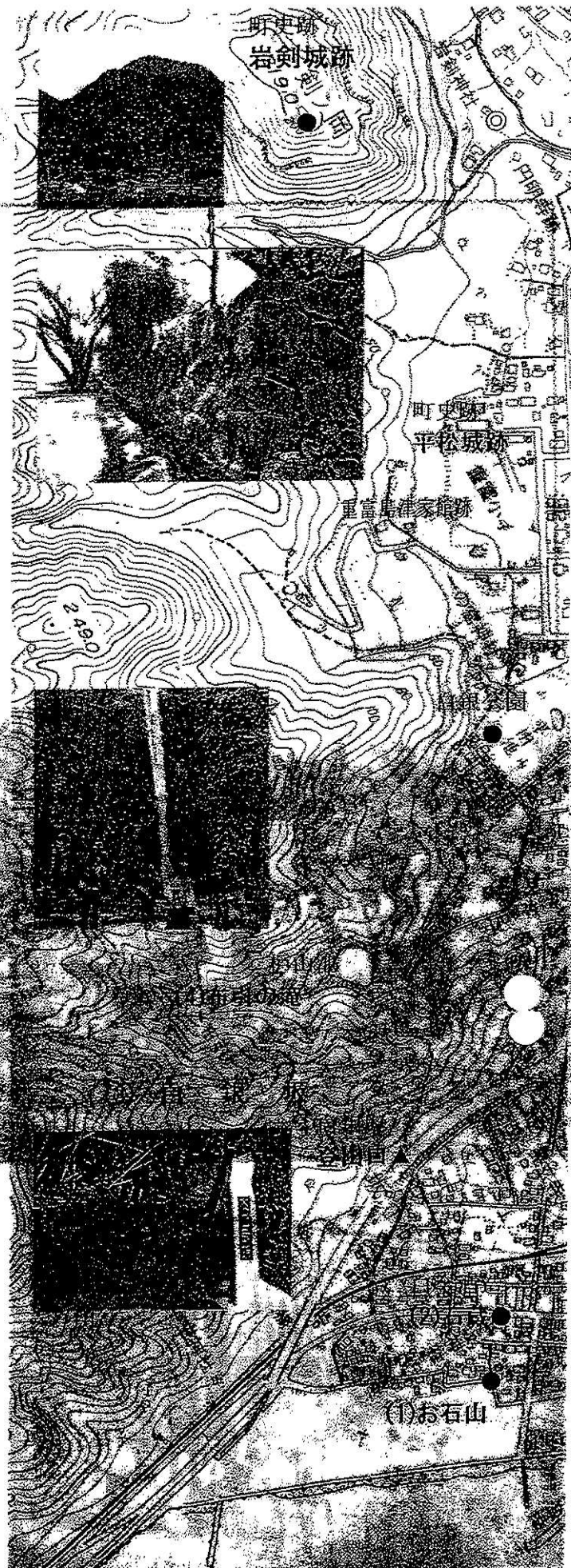


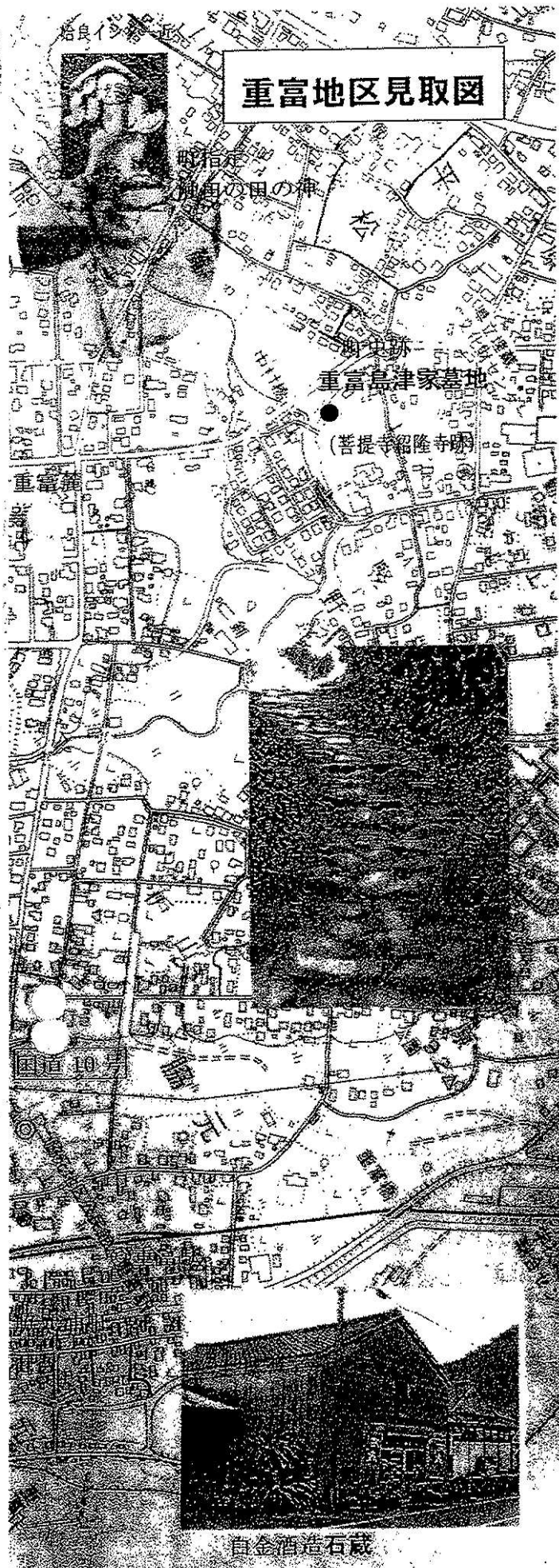
(2) 白金酒造石蔵 (国登録文化財)

白金酒造会社の創業は、今から138年前の明治2年です。明治10年の西南の役では、西郷隆盛の陣屋として使用されたそうです。そのころには石蔵はあったそうです。1階は焼酎醸造の「かめ仕込み」に使用し、2階は焼酎の展示や集会等に使用しています。焼酎「白金の露」は、大正2年から継続して醸造されています。

「本当にデンプンのにおいがしたね。」

「ルース台風の時は、屋根が壊れたそうよ。」





重富地区見取図

クイズ② 焼酎の原料はさつまいもです。そのおイモの名前を知っていますか。

(3) 白銀坂 (国指定史跡・歴史の道)

「石畳もあって、急な坂道だってね。」

「昔は狐がいて、人をだましたそうよ。」

古代には、薩摩国と大隅国の境がこの坂道の途中にあったとされています。中世には、島津貴久と息子たち(義久・義隆)が、この白銀坂にとりでを築いて、敵と戦いました。近世になると、白銀坂は特に鹿児島と地方(大口・加久藤・日向)を結ぶ重要な道として整備されました。明治になると、国道10号や鉄道直隸線が開通して通る人が少なくなり、忘れ去られました。

参勤交代の行列も通った白銀坂は、歴史的・文化的価値ある道路として見直され、その利用・活用を図るべく整備されました。

現在は、布引の滝ため池なども公園化して、登山やハイキングコースとして、利用者が近隣の市や町から訪れています。

「休憩所からの眺望はさつまいもだね。」

「よくぞ登ったよ。気分さつまいもだね。」

クイズ③ 島津さん親子が白銀坂などで戦ったのは、○○年の戦いです。

(4) 布引の滝

白銀坂下山の途中から、左手の尾根を越えて下ると、轟川(栢山池)に出ます。そこから上流へ上ると、高さ20メートル、幅2メートルの布引の滝に着きます。焼酎白銀の露の水は、この地下水を使用して作られ、おいしい焼酎になるといわれています。源流は、白銀山中から流れています。

「木製の橋や階段があって、上りやすいね。」

「ひんやりとして、気持ちいいね。」

(5) 白銀公園

ここは、数年前までは平田池でした。下流の田に水を供給するため池でした。重富は水利に乏しく、栢山池・平田池・山之口池のため水を利用して、稲作をしました。山之口池は今もなお、稲作に利用されていますが、栢山池・平田池は公園として整備され、憩いの場として町民に親しまれています。

「史跡めぐりは疲れたね。」「だけれど心地よい汗をかき、広々とした公園で弁当を広げ、次の史跡めぐりを語り合うのは楽しいね。」

「みなさん、次号にご期待ください。」

(文責：西田 實)

※クイズの解答

①平松 ②黄金千貫 ③岩剣

東郷町の「兵六踊り」

5月12日、川内市東郷町の「兵六踊り保存会」の方々による兵六踊りが「白銀坂の狐退治」がテーマという縁で脇元地区公民館の広場で演じられました。伝統による洗練された”泥臭さ”がとてもしばらしく、見物された方々から「もっと多くの方々に見て欲しい催しだ」という意見でした。



三味琴など弾いて余裕の兵六



キツネに化かされ坊主にされる

← 坊主にされた兵六は約束通り生首を渡せと二才衆に攻められるが、大久保彦山坊の取りなしで許してもらう。

始良町歴史ボランティア協会の設立を喜ぶ

歴史民俗資料館館長 塩満郁夫

始良町の歴史ボランティア養成講座の第一期生として、歴民館での文献による学習から巡検まで旺盛な探究心を持って取り組まれてきました。

特に後半になり歴民館のスケジュールだけでは物足りなく、グループごとに巡検地や日程を話し合い、雨にも寒さにも負けずに弁当持参で喜々として出掛けられる姿は素晴らしいものでした。始良町の歴史への愛着と仲間の有り難さを深く感じられたことと思われます。

そしてこの協会のあるべき姿がだんだん見えてきたのではないのでしょうか。始良町には身近に国指の史跡を初め貴重な史跡等がたくさんあります。しかし、多くの町民の方々はそのことに気付いておられない感じがします。例えば島津義弘といえば、すぐ日置市伊集院町や加治木町のことで、始良町には関係ない人物だと思われがちですが、義弘の初陣や一番活躍したのは始良町に在住していた時代です。これらのことを初めとして歴民館もいろいろな企画で情報を発信したいと思っています。



西田の田の神

田の神シリーズ1

神々は人間とかけ離れた存在がある。しかしこの田の神は人間臭さや、人間の欲望をユーモアの中に表現している。

このような表現の出来る高い芸術性を持った名も無い石工が200年も前この地にいたということに驚く。



杓子、腕を持った石碑浮彫 文化2(1805)年4月

道案内

サティまえの県道を蒲生方面へ、山田口信号機で右手に分かれ老人ホーム「やすらの郷」の建物を右に見てしばらく。

道路端に高低差が無いのがかえって気付きにくい。

西田公民館の前。

(文責 宝泉)



広報部より

始良歴史ボランティア協会を発足させ、会の規約も決め活動を開始することになりました。

この「あいら歴史物語」と題する広報紙もその活動の一環です。しかし、第1号の本紙を発行したものの、今後どのように発展させていくか、その針はまだ決まっていません。協会員の話し合いで、まわっていくことですが、しばらくは試行錯誤でいろいろと試してみて、自分たちの活動できる分野を探し出していくことだと思います。どうか温かく見守ってください。

さて、次号から町内の「田の神」を特集し、それをもとに皆様が田の神探訪を実際に出来るような紙面にしたいと考えています。ご期待ください。

始良歴史ボランティア協会会員名簿

| | | | |
|------|-------|------|-------|
| 会長 | 橋本雅晴 | | |
| 副会長 | 新田やす子 | | |
| 書記会計 | 中野則子 | | |
| 会員 | 松元淳一 | 西田 實 | 本多サチ子 |
| | 濱口純則 | 恒見勝則 | 宝泉孝志 |
| | 潤田和也 | 新穂 守 | |